

「東海第二原発 20 年延長と再稼働をゆるさない」 11 月 19 日の現地東海村「講演会」とデモに参加して

しらくら真弓（原発至近首都圏市民）

2011 年 3 月 11 日直後から、脱原発を掲げた城南信用金庫相談役の吉原毅さんの「原発はなくても大丈夫」の講演（2017 年 11 月 19 日）は、簡潔明瞭でした。

原発は安全ではなく、代替エネルギーはある。原発は経済的に採算に合わないという結論です。40 年稼働させた後、廃炉を完了するには莫大な年月と費用がかかる。まして事故原発は廃炉の見通しがつかない。東京電力福島第一原子力発電所で起きている事実です。

永遠に続く廃炉作業、放射性廃棄物処分に 10 万年、管理する方法も場所もない。その廃炉費用が 21 兆円に膨れ上がりさらに増え続け、無限になるだろう。この無限大を 40 年で割っても答えは無限大。採算の合いようがない。

だからこそ一刻も早い政治的方向転換（脱原発）が必要なのです。こう言えば聞こえる声は「電力会社が潰れちゃう?」。でも、東京電力は、とっくの昔に潰れている。それが事実。

私たちの税金が投入されているから電力会社が立っているように見えるだけ。だからこそきちんと倒産させて、税金を使うなら、立て替え払いにする。

事業者の責任を可視化し、きちんと返済させていく。これは現実に可能である。

以上が吉原講演の私のまとめた要旨です。



この日、私がプラカードに書いたのは、「脱原発がリスクをなくす。再稼働、再処理コストがかかる。東海第二動かすな」でした。

講演後、主催者の大石光伸さんが東海第二原発の危険性を画像説明され、玉造一さんから規制委が再稼働や運転延長を認めないように抗議を続けていく、さし迫った期限と関係市町村の結集問題を聞きました。そしてデモへ。



茨城アクションを先頭に、バスで参加した 47 人と電車参加の 10 人程の計 400 名余りが歩き、抗議・阻止の声を上げました。

ピースサイクル 3 人が行き来し、朝鮮太鼓をたたく 2 人が列の後方でリズムをとります。賑やかなデモが行く静かな町。

東海には 30 キロ圏に 96 万人が住むというけれど、原発が動くと知って、じっとしてられない人がいるでしょう。その人々でこの道を埋め尽くしたなら東海村は脱原発村に変わる、と夕日を受けながら韓国のローソク革命を思いました。

すっかり日が暮れた東海村。「脱原発とうかい塾」世話人代表の相沢正一さんの現地説明で、無責任な JCO 事業所、東海第二原発、核燃サイクル工学研究所をバスの中から見つめました。この夏、1100 人の人間の鎖で抗議し包囲した同じ現場です。

ここが、再び高い放射能汚染に見舞われたり避難を強いられたりすることがあってはならない。私たちはそのために行動していることを共有しました。

